

## 事業戦略 ③ 新商品を育てる

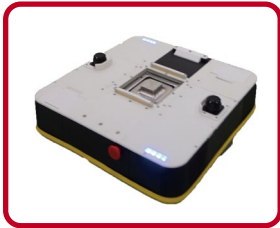


NSKは、MTP2026でBearings & Beyondを掲げ、既存製品の商品力強化に加えて、新商品・新事業の拡大に取り組んでいます。FY2026までに新商品やサービスなどで500億円の売上高を目指し、ベアリングの枠を超える新商品とサービスで新たなビジネス領域を育てていきます。

産業機械  
事業

自動化・電動化 / 予知保全技術の浸透 / 環境・医療・バイオ技術の進化

エネルギー転換の加速



● 搬送アシストロボット



● アクティブキャスタ

● 電動アクチュエータ  
建設機械 / 農業機械 など



● 食用油劣化抑制  
フィルター



● CMS拡大  
BKVとのシナジー

● 産業機械アクチュエータ拡販

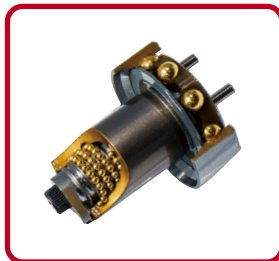
● 水素関連ビジネスの広がり

● 再生・細胞医療製品向け技術

売上高目標  
500億円

FY2026

Post 2026



● 電動油圧ブレーキシステム用  
ボールねじ



樹脂モールド軸受 導電ブラシ

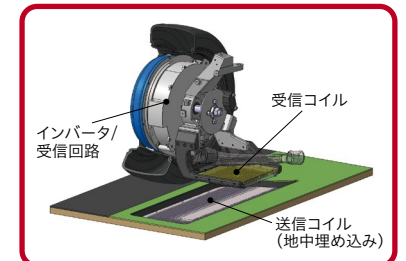
● 耐電食製品



● パワーフロー  
スイッチングデバイス



● トルクセンサ



● 走行中ワイヤレス給電  
第3世代ワイヤレスインホイールモータ

自動車  
事業

HEV・EVが拡大

EVヘシフト

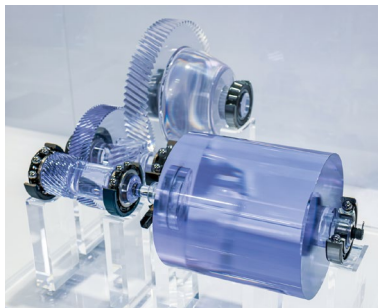
EV走行性能向上

## 今後一層高度化する市場のニーズに応え、「変わる 超える」で新商品を生み出す

### ■ 持続可能なモビリティ社会の実現

自動車市場では、EVシフトの加速に伴い、自動車に搭載されるベアリングの需要が減少すると考えられています。自動車の技術革新が進む中、特に着目しているのがブレーキシステムの電動化です。従来のブレーキシステムでは、エンジンの吸入負圧を使って、ブレーキを踏む力をアシストしていました。しかし、EVやHEVでは、エンジンの負圧が使いづらくなるため電動式への置き換えが進んでいます。また、自動車の安全面でのニーズの高まりを背景に、電動ブレーキシステムの需要は急速に増えています。NSKは、電動油圧ブレーキシステムに搭載されるボールねじの拡販を進めています。ボールねじは応答性に優れており、障害物を検知してからブレーキが利き始めるまでの時間を短くできるのが特徴です。FY2026には、ボールねじ式の電動油圧ブレーキシステムにおける世界市場シェアを5割以上に拡大することを目指し、最適地でのグローバルな供給体制を構築・拡大していきます。

また、EV普及における技術面での課題の一つがベアリング内部に発生する放電によってベアリングの性能が低下する「電食」です。この課題に対して、耐電食製品のラインナップを拡充させています。NSKでは、これからも省エネルギー化、安全性、快適性を実現する製品や技術の開発に取り組み、持続可能なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

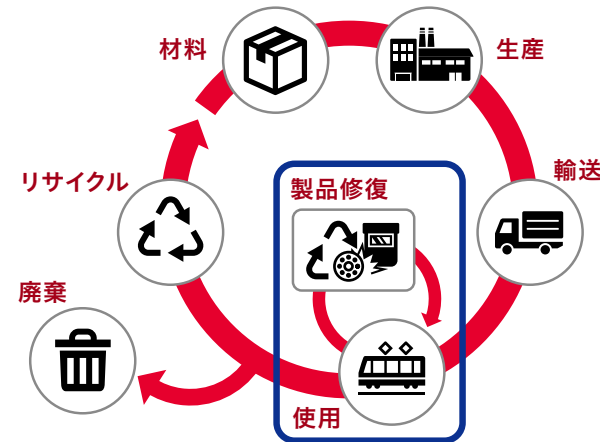


耐電食製品も組み込まれているeAxleのモックアップ

### ■ 自動化・省人化・スマート化などへの対応

NSKでは、「モノ売り」だけでなく「コト売り」を通じたビジネスモデルの変革による拡販を目指しており、製品を販売するだけでなく、その後の設備メンテナンスや補修、さらには製品の廃棄まで、お客様のバリューチェーンとのつながりを深めたPLM（プロダクトライフサイクルマネジメント）モデルの確立に取り組んでいます。そのために注力しているのが、生産性向上を実現するCMS（コンディション・モニタリング・システム／状態監視システム）の活用や、破損の程度が軽いベアリングの修復などのリコンディショニングサービスです。

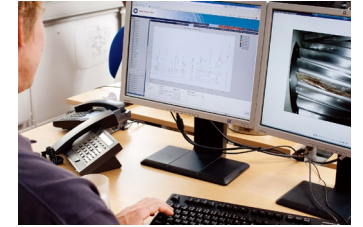
#### ■ 製品ライフサイクルの概念図



従来は使用後に廃却していた製品を  
修復・再利用することで省資源化を実現

2021年3月には、CMS事業で世界トップ10に入るBKV（ブリュエル・ケアー・パイプロ）を買収しました。BKVの優秀な人材、顧客基盤、技術力、信頼のブランドをNSKのベアリング・精機製品の知識と掛け合わせることで、CMS事業をさらに拡大していきます。

また、設備や製造ラインの予知保全を行うCMS事業を通じて、効率良く設備を使用することを可能にする他、突発的な生産リスクを低減するなど循環型社会に貢献します。トライボロジーとデジタルの融合による価値を創出し、自動化・省人化・スマート化など社会的ニーズへの対応力を一層強化していきます。



風力発電装置のリモートモニタリング、診断サービス

### ■ 新興市場への技術供給

NSKでは、社会に貢献するサービスロボットの技術開発を進めています。物流、福祉、建設など様々な業界で人手不足が顕在化しロボット活用への期待が高まる中、人とロボットが協力して働くには人間のように移動するロボットが不可欠です。そこで、スムーズな全方向への移動を実現するアクティブキャスタを開発し、人とロボットの協調を目指しています。

また、世界的に市場が拡大し、期待が高まっている医療・バイオ分野への参入も進めています。搬送アシストロボットの技術開発や、再生・細胞医療製品分野での技術開発を行い、新市場への投入を目指して活動を進めています。

人とロボットが協業する社会、人が健康でいきいきと暮らせる社会を目指し、新市場への技術供与、新事業の拡大を図っていきます。



アクティブキャスタ

▶ P.33 新たな価値協創への挑戦